

リリースバージョン	PicOS 2.0
リビジョン	10969
リリース日	2013年7月12日

"PicOS 2.0では組み込み用LinuxからMPC8541/8548/P2020 CPUをサポートする、フル機能のDebian 7.0に変更されました。ユーザーは、自らのコードを構築したり、他のソフトウェアパッケージや新しいOVS、既に追加されているL2/L3機能をインストールすることができます"

【新機能と変更点】

1. OpenFlow 1.3のサポートを追加しました
2. P3290/P3295/P3780/P3920でフローに基づいたMeter機能が使用出来るようになりました
3. P3780/P3920にてPBB(provider backbone bridge)のサポートを追加しました
4. DSCP (Differentiated Services Code Point) フィールドの再マーキングのサポートを追加しました
5. ハイブリッドモードでVLANベースのOpenFlow分離をやめて、ポートベースの設定に変更しました
6. ハイブリッドモードでのOpenFlowECMPのサポートが追加されました
7. ハイブリッドモードでクロスフローのサポートを追加しました
8. ハイブリッドモードでOpenFlow用にTCAMエントリ、ルートテーブル、FDBテーブルアロケーションを追加しました
9. ハイブリッドモードでL2/L3のフローをサポートしました

■L2/L3

1. BGP機能をフルサポートできるように拡張
 - A. LOAD_BALANCE
 - B. AS_PATH Multipath Relax
 - C. AS In (ignore-first-as) を許可
 - D. Fast eBGP Fall-over
 - E. Private AS削除
 - F. Aggregate
 - G. Next-hop-self
 - H. Network advertise route
 - I. MD5
 - J. Community send設定
 - K. Local preference設定
 - L. Med設定
 - M. Route-refresh
 - N. 同期設定
 - O. デフォルトルート
 - P. BGP4-MIB、1.3.6.1.2.1.15.6
2. rapid PVST+追加、VLANベーススパンニングツリーのサポート
 - A. VLANベーススパンニングツリーを追加しました
3. ACL機能の強化
 - A. 各フィルタ項目に対してシーケンス番号(プライオリティ)を追加しました
 - B. 各フィルタのデフォルトのエントリとして "すべてを拒否"追加しました
 - C. トランスポートプロトコルのポート番号をフィルタリングするためにLT、GT、EQ、およびNEQ操作をサポートしました
 - D. 各ACL設定に"log"を追加しました : "log"がセットされると任意のマッチングイベントがログに記録されます
 - E. マッチングのためにDSCP precedence/ToSフィールドを追加しました
 - F. LAG / LACPポートに適用できるようACL機能を強化しました

4. エンハンスド・コンフィギュレーションの最適化:

- A. オペレーションモードにshow all_configコマンドを追加しました
- B. スイッチの設定内容をエクスポート出来るように改良しました
- C. 全体の設定ファイル適用ではなく、部分的に設定を適用できるようにしました

5. L2/L3追加改善:

- A. RAガードのサポートを追加しました
- B. port link SNMP trap control を追加しました
- C. flex-linkのサポートを追加しました

■Linuxプラットフォームの改善

- 1. MPC8541/MPC8548/P2020にDebianのLinux 7.0をフルサポートしました
- 2. インボックスC/C++ビルド環境を追加しました
- 3. Python/Perl/TCLをサポートしました
- 4. エンドユーザーが簡単にLinuxツールやアプリケーションをインストールできるようにプラットフォームを改良しました

■修正されたバグ

- 1. 静的IP設定とDHCPの競合
- 2. LLDPの表示名をホスト名として表示
- 3. ポートMMUバッファの誤配置とその結果発生する低速ブロックの問題
- 4. IPv6のOSPFv3のいくつかのバグ
- 5. 大量のフローをインストールした場合、フローをダンプするとOVSがクラッシュする
- 6. BGPパフォーマンスの改善
- 7. スタートアップに設定をロードするときのシステムの堅牢性を改善
- 8. DHCPの一つのメンバーインターフェイスを削除したときにDHCPリレーが動作しない

■既知の問題

- 1. オペレーションモードでshow all コマンドを実行するとCLIがコンフィグレーションモードに遷移する
- 2. L3ループバックインターフェイスはサポートされない
- 3. スパニングツリープロトコルを無効にしたとき、ポートがトラフィックループから自動的に回復しない
- 4. BPDUを受信したときにミスマッチPVIDポートのPVST+ステータスが変更される
- 5. フレックスリンクは、LAG / LACPをサポートしない
- 6. corssflowモードを利用する場合、L2/L3ポートとOpenFlowポートとの間にルート競合が起きていないことを確認してください

お問い合わせは、cloud-sales@nclc.co.jp まで



Pica8 Inc. 認定日本国内総代理店

エヌ・シー・エル・コミュニケーション株式会社

NCLC

URL <http://www.nclc.co.jp/products/sdn/pica8/>